

息子（小学2年・特別支援学級在籍）が隔離されていたことについて

○現場の状況

別紙のとおり

○期間

2019年5月～7月

○担任からの事前説明

5月の連休明けに「授業中のプリント学習のときに息子をブースに入れる」との説明があった。理由は、息子が集中できるからというものであった。

○隔離に関して分かっていること

- ・息子がブースの中で生活できるようにロッカー、荷物置き、道具箱など生活に必要なものがすべてブースの中にセットされていた。
- ・朝の会が始まる前からブースの中に閉じ込められていた。
- ・国語と算数の授業中はずっとブースの中に閉じ込められていた。
- ・帰りの会の間もブースの中に閉じ込められていた。
- ・ブースの中は外より暑いため、妻が息子が熱中症になることを心配し「どうにかならないか」と抗議したものの、学校は何の対応もしなかった。
- ・担任が日々当たり前のように息子をブースに閉じ込めていたため、それを見ていたクラスメートたちが息子をブースに閉じ込めることが正しいことと認識してしまっていた。（息子がブースの外に出てくると、あるクラスメートが息子をブースの中に連れて行った。妻が息子を他のクラスメートたちのそばに連れて行ったとき、あるクラスメートが担任に「どうして〇〇さん、ここにいるの？」と言った。）

○学校が隔離を止めた経緯

私たちは、息子が隔離されていることについて大きな不満があったが、特別支援教育についての専門的な知識がないため、担任に抗議することをためらっていた。しかしながら、文部科学省に相談したところ「これほどの高さのあるブースを学習等に使用することはない」との回答があったことや、主治医から「息子の状態が悪化しておりすぐに教室の環境を変えなければならない」との指摘があったことから、学校に対してブースの撤去等を求める要望書を提出し、8月下旬、学校が要望どおりにブースを撤去した。

○学校が私たちの要望を受け入れたときの説明

- ・「このように隔離をすることは通常のことですか」との質問に対し否定しなかった。
- ・「虐待などをするつもりはなかった。ただ、保護者にそのような気持ちにさせたことについては配慮が足りなかった。」との説明があった。
- ・隔離については、「特別支援学級の教員みんなで考えてそうすることにした」との説明だった。